

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程		
科 目 名	(人間の尊厳と自立) 介護倫理	授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習
授業概要	「尊厳」とは何か、「自立・自律」とは何かを、身体拘束、介護虐待、リスクマネジメント等の現状や捉え方について、理解してもらう。				
担当講師	氏名 中島 誠吾	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員		
時 間 数	30 時間	単位数	単位	学習時期	学年 2 年生 期 後期
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択 <input type="checkbox"/> 自由選択
到達目標	施設、居宅を問わず、介護サービス全般において、いかなる場面でも利用者の尊厳守り、利用者主体のサービスを提供できる介護福祉士像を確立する。				
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする 				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・板書による講義を中心とする。 ・プロジェクターを用いて視覚的効果の高い授業を行う。 				

授業進行計画表		
回数	授業内容	時間数
1	福祉とは何か	2
2	社会福祉と幸福〔演習〕	2
3	人間の尊厳	2
4	福祉と倫理〔演習〕	2
5	自律と自立	2
6	福祉の支援と専門職〔演習〕	2
7	介護福祉士とは	2
8	介護福祉士に求められる人間理解	2
9	社会福祉が目指すもの〔演習〕	2
10	利用者を理解し支える専門性〔演習〕	2
11	介護を受ける人の気持ちを理解する	2
12	介護の理念としての自立支援	2
13	事例検討① 「老人福祉施設における倫理」	2
14	事例検討② 「在宅福祉サービスにおける倫理」	2
15	修了試験	2

成績評価の方法・基準 (試験やレポートの評価基準等) 出席状況と試験結果により評価
--

使用教材・参考文献 株式会社 メヂカルフレンド社 第1巻 「人間の理解」 福祉小六法 その他資料
--

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程		
科 目 名	(人間関係とコミュニケーション) 社会福祉援助技術	授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習
授業概要	個別援助技術及び集団援助技術・地域援助技術に加え、ケアマネジメント、チームワークについて行う。				
担当講師	氏名 小方 優子	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員		
時 間 数	30 時間	単位数	単 位	学習時期	学年 1 年生 期 後期
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択 <input type="checkbox"/> 自由選択
到達目標	実践に活かせる知識の修得をはかる。				
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする 				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・板書による講義を中心とする。 ・プロジェクターを用いて視覚的効果の高い授業を行う。 				

授業進行計画表		
回数	授業内容	時間数
1	人間の理解 人間形成のプロセス	2
2	人間の理解 認知世界	2
3	人間の理解 ストレス	2
4	人間の理解 援助対象者のとらえ方	2
5	人間関係の形成	2
6	発達と人間関係	2
7	個別援助技術の理解 ①構造と機能 ②基本原理・原則	2
8	個別援助技術の理解 ③展開過程 ④記録とスーパービジョン	2
9	集団援助技術の基礎的理解 ①構造と機能 ②基本原則	2
10	集団援助技術の基礎的理解 ③展開過程	2
11	地域援助技術 ①意義と機能 ②地域福祉援助と介護専門職	2
12	コミュニケーションの基礎	2
13	コミュニケーションの技法	2
14	コミュニケーションの技法 ①書き言葉 ②機械	2
15	修了試験	2

成績評価の方法・基準 (試験やレポートの評価基準等) 出席状況と試験結果・授業態度により評価

使用教材・参考文献 中央法規 新・介護福祉士養成講座 第1巻「人間の理解」
--

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程		
科 目 名	(社会の理解) チームマネジメント	授業方法	■ 講義	□ 実技	□ 実習
授業概要	介護実践をマネジメントするために必要な①組織の運営と管理②人財の育成や活用、それらに必要な③リーダーシップとフォロワーシップ等チームで働く力を養うための知識とこにゆにケーション能力を養う。				
担当講師	氏名 大峰 史子	■	実務経験を有する教員		
時 間 数	30 時間	単位数	単 位	学習時期	学年 2 年生 期 後期
科目区分	■ 専門	□ 一般	履修区分	■ 必修	□ 選択 □ 自由選択
到達目標	福祉サービスにおける組織の機能や構造について理解できる チームでケアを展開するために必要な様々な実践力について理解できる。 チームワークとは何かを理解し、そこで必要となるリーダーとフォロワーの役割について説明できる。				
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする 				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・板書による講義を中心とする。 ・プロジェクターを用いて視覚的効果の高い授業を行う。 				

授業進行計画表		
回数	授業内容	時間数
1	介護サービスの特性と求められるマネジメント。	2
2	チームマネジメントの基本	2
3	ケアを展開するために必要なチーム	2
4	実践力を高めるためのチームマネジメント	2
5	チームワークに必要なリーダーとフォロワー	2
6	介護職としてのキャリアデザイン	2
7	キャリア開発のしくみ	2
8	キャリア開発と自己研鑽	2
9	福祉サービスと事業所組織	2
10	事業所組織の機能と役割①	2
11	事業所組織の機能と役割②	2
12	事業所組織の運営	2
13	地域におけるマネジメント	2
14	業務課題の発見と解決の方法①	2
15	修了試験	2

成績評価の方法・基準 (試験やレポートの評価基準等) 出席状況と試験結果により評価
--

使用教材・参考文献 中央法規 人間の理解

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科			専門課程	教育・社会福祉専門課程				
科 目 名	(社会の理解) 生活と福祉			授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習		
授業概要	○社会福祉の歴史、運営実施体制、社会保障及び関連制度の概要 ○介護保険法・自立支援法・個人情報保護法・成年後見人制度の概要								
担当講師	氏名	佐藤 尊之			<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員			
時 間 数	30 時間	単位数	単位	学習時期	学年	1 年生	期	後期	
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> 自由選択			
到達目標	社会福祉の全体を把握し、自立した生活に必要な課題は何であるか、考えられるようになる。								
準備学習の内容	・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする								
授業の進め方	・板書による講義を中心とする。 ・プロジェクターを用いて視覚的効果の高い授業を行う。								

授業進行計画表		
回数	授業内容	時間数
1	生活と社会福祉 ①生活の構造と家族	2
2	生活と社会福祉 ②地域・社会の組織	2
3	ライフスタイルの変化・社会構造の変化	2
4	生活支援と福祉	2
5	社会福祉法制の体系 1	2
6	社会福祉法制の体系 2	2
7	社会福祉の行政	2
8	社会福祉の財政	2
9	社会福祉の運営組織	2
10	福祉サービスの提供と利用	2
11	社会福祉及び関連制度の概要 ①所得保障制度の概要	1
11	社会福祉及び関連制度の概要 ②医療保険制度の概要	1
12	社会福祉及び関連制度の概要 ③介護保険制度の概要	2
13	社会福祉及び関連制度の概要 ④雇用・就労制度の概要	2
14	社会福祉及び関連制度の概要 ⑤その他の社会保障関連制度	2
15	修了試験	2

成績評価の方法・基準
(試験やレポートの評価基準等)
出席状況と試験結果により評価

使用教材・参考文献
中央法規 最新・介護福祉士養成講座 第2巻 「社会と制度の理解」

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科			専門課程	教育・社会福祉専門課程				
科 目 名	(社会の理解) 社会保障制度			授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習		
授業概要	○社会福祉の歴史、運営実施体制、社会保障及び関連制度の概要 ○介護保険法・自立支援法・個人情報保護法・成年後見人制度の概要								
担当講師	氏名	佐藤 尊之			<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員			
時 間 数	30 時間	単位数	単位	学習時期	学年	1 年生	期	後期	
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> 自由選択			
到達目標	社会福祉の全体を把握し、自立した生活に必要な課題は何であるか、考えられるようになる。								
準備学習の内容	・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする								
授業の進め方	・板書による講義を中心とする。 ・プロジェクターを用いて視覚的効果の高い授業を行う。								

授業進行計画表

回数	授業内容	時間数
1	介護保険制度 「背景と目的」	2
2	介護保険制度 「しくみ」	2
3	介護保険制度 「組織・団体の役割」	2
4	介護保険制度 「動向」	2
5	障害者自立支援制度 「背景と目的」	2
6	障害者自立支援制度 「しくみ」	2
7	障害者自立支援制度 「組織・団体の役割」	2
8	権利擁護 「個人情報保護法」	2
9	[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]	2
10	権利擁護「成年後見人制度」	2
11	福祉資格法の成立と目的 ①社会福祉従事者	1
11	福祉資格法の成立と目的 ②社会福祉従事者と専門性	1
12	福祉資格法の成立と目的 ③福祉資格法の目的と性格	2
13	国内外における社会福祉の動向	2
14	後期まとめ	2
15	修了試験	2

成績評価の方法・基準

(試験やレポートの評価基準等)
出席状況と試験結果により評価

使用教材・参考文献

中央法規 最新・介護福祉士養成講座
第2巻 「社会と制度の理解」

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学科名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程		
科目名	介護保険制度	授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習
授業概要	○介護保険制度の導入の経緯から、基礎的な概要、サービスの内容などを詳しく説明する。 ○福祉の各法について、介護保険制度との具体的な関連を考えながら指導していく。				
担当講師	氏名	関 幸一郎	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員	
時間数	30 時間	単位数	単位	学習時期	学年 1 年生 期 後期
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択 <input type="checkbox"/> 自由選択
到達目標	介護保険の内容と、それに付帯する福祉制度について理解をする。 「福祉事務管理技能検定3級」への合格を目指し、介護福祉士として活躍できる幅を広げる。				
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする 				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・板書による講義を中心とする。 ・プロジェクターを用いて視覚的効果の高い授業を行う。 				

授業進行計画表		
回数	授業内容	時間数
1	介護保険導入の背景	2
2	介護保険制度の概要 認定からサービスを受けるまでの流れと仕組み	2
3	介護保険制度の概要 各サービスの説明と理解①	2
4	介護保険制度の概要 各サービスの説明と理解②	2
5	介護保険制度の概要 サービスを受けるための仕組み①	2
6	介護保険制度の概要 サービスを受けるための仕組み②	2
7	介護保険制度の概要 介護保険制度の仕組み①（行政の役割）	2
8	介護保険制度の概要 介護保険制度の仕組み②（財源・保険料について）	2
9	ケアプランの概要 介護保険制度の中でのケアプランの役割	2
10	ケアプランの概要 ケアプランの実際①	2
11	ケアプランの概要 ケアプランの実際②（事例演習）	2
12	介護報酬請求事務について	2
13	介護保険制度全般のまとめ	2
14	介護保険制度全般のまとめ	2
15	試験	2

成績評価の方法・基準 （試験やレポートの評価基準等） 出席状況、授業態度、福祉事務管理技能検定の結果等により評価

使用教材・参考文献 日本医療事務センター 「介護事務テキスト 1～4

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程			
科 目 名	パソコン実習	授業方法	■ 講義	■ 実技	□ 実習	
授業概要	○ビジネス文書を作成する上で必要な各種技術を学習する。 ○表計算ソフトを利用した表の作成とその応用、また様々な関数や、各種グラフ等の作成ができるよう学習する。					
担当講師	氏名	茶谷 太	■	実務経験を有する教員		
時 間 数	90 時間	単位数	単 位	学習時期	学年	1 年生 期 後期 2 年生 前・後期
科目区分	□ 専門	□ 一般	履修区分	■ 必修	□ 選択	□ 自由選択
到達目標	○表が入ったビジネス文書を作成することができる。 ○表計算ソフトを利用して表やグラフを作成することができる。 ○表計算ソフトのデータベース機能を利用して簡単なデータ管理を行うことができる。					
準備学習の内容	・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする					
授業の進め方	・プロジェクターを用いてパソコン操作の方法を身に付ける。 ・練習問題の演習。					

授業進行計画表		
回数	授業内容	時間数
1	WindowsXP の操作実習	2
2	入力練習ソフトウェアを利用したタイピング練習（ローマ字のみの入力）	2
3	入力練習ソフトウェアを利用したタイピング練習（数字・記号の入力を含む）	2
4		2
5	ワープロソフト上での文字入力練習（ひらがなの入力）	2
6	ワープロソフト上での文字入力練習（漢字変換）	2
7	文章の入力と保存・印刷実習	2
8	Word の操作実習（フォントの活用・基本的な書式設定）	2
9	Word の操作実習（段組・書式設定の応用）	2
10	Word の操作実習（罫線機能の利用）	2
11	初歩的なビジネス文書の作成実習	2
12	表を含んだビジネス文書の作成実習	2
13	イラスト入りビジネス文書の作成実習	2
14	差込み印刷を利用した文書の作成実習	2
15	ビジネス文書作成実習（Word の復習）	2
16	実技試験（Word）	2
17	Excel の操作実習（表の書式設定）	2
18	Excel の操作実習（罫線機能を使った表の作成）	2
19	Excel の操作実習（印刷のための書式設定）	2
20	計算式を利用した表の作成	2
21	各種関数の活用（SUM・AVERAGE・MAX・MIN 関数を利用した表の作成）	2
22	各種関数の活用（COUNT・IF 関数を利用した表の作成）	2
23	各種関数の活用（COOKUP・各種財務関数を利用した表の作成）	2
24	2 3. ワークシート間のデータ結合	2
25	2 4. グラフの作成	2

26	データベースの基礎	2
27	データベースの機能を利用したワークシートの作成	2
28	ワークシート作成実習（各種関数の復習）	2
29	ワークシート作成実習（グラフの復習）	2
30	Word と Excel の活用（ファイリングのリンク・ワードアートの利用）	2
31	IF 関数 I	2
32	IF 関数 II	2
33	IF 関数 III・AND 関数・OR 関数	2
34	VLOOKUP 関数 I	2
35	VLOOKUP 関数 II	2
36	試験	2
37	HLOOKUP 関数 I	2
38	HLOOKUP 関数 II	2
39	複数のシート（作業グループ）	2
40	複数の表から参照する	2
41	MATCH 関数	2
42	複合グラフ	2
43	COUNTIF 関数・SUMIF 関数	2
44	ピボットテーブル・グラフ	2
45	WEEKDAY 関数	2
	修了試験	

成績評価の方法・基準

（試験やレポートの評価基準等）

出席状況と授業態度、試験結果により評価

使用教材・参考文献

実教出版 「30 時間でマスター Word&Excel 2003 Windows XP 対応」

FOM 出版 よくわかるマスター MOS Excel 2010

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学科名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程		
科目名	福祉事務	授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習
授業概要	○介護保険制度の導入の経緯から、基礎的な概要、サービスの内容などを詳しく説明する。 ○福祉の各法について、介護保険制度との具体的な関連を考えながら指導していく。 ○介護保険制度について、具体的な内容の理解と実際のレセプト作成について指導する。				
担当講師	氏名	関 幸一郎	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員	
時間数	30 時間	単位数	単位	学習時期	学年 1 年生 期 後期
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択 <input type="checkbox"/> 自由選択
到達目標	介護保険の内容と、それに付帯する福祉制度について理解をする。 「福祉事務管理技能検定3級」への合格を目指し、介護福祉士として活躍できる幅を広げる。				
準備学習の内容	・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする				
授業の進め方	・板書による講義を中心とする。 ・プロジェクターを用いて視覚的効果の高い授業を行う。				

授業進行計画表

回数	授業内容	時間数
1	介護報酬レセプト作成 介護報酬の計算方法	2
2	介護報酬レセプト作成 介護報酬の計算方法	2
3	介護報酬レセプト作成 介護報酬の計算方法	2
4	介護報酬レセプト作成 介護報酬の計算方法	2
5	「福祉事務管理技能検定」対策講座 実際に問題を解き、解説をする	2
6	「福祉事務管理技能検定」対策講座 実際に問題を解き、解説をする	2
7	「福祉事務管理技能検定」対策講座 実際に問題を解き、解説をする	2
8	「福祉事務管理技能検定」対策講座 実際に問題を解き、解説をする	2
9	「福祉事務管理技能検定」対策講座 実際に問題を解き、解説をする	2
10	「福祉事務管理技能検定」対策講座 実際に問題を解き、解説をする	2
11	「福祉事務管理技能検定」対策講座 実際に問題を解き、解説をする	2
12	「福祉事務管理技能検定」対策講座 実際に問題を解き、解説をする	2
13	「福祉事務管理技能検定」対策講座 実際に問題を解き、解説をする	2
14	「福祉事務管理技能検定」対策講座 実際に問題を解き、解説をする	2
15	「福祉事務管理技能検定」対策講座 実際に問題を解き、解説をする	2

成績評価の方法・基準

(試験やレポートの評価基準等)

出席状況、授業態度、福祉事務管理技能検定の結果等により評価

使用教材・参考文献

日本医療事務センター

「介護事務テキスト 1～4」

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程			
科 目 名	介護の基本	授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習	
授業概要	介護福祉士として、基本的知識・技術・態度はどのようなものか考えながら学習していく。					
担当講師	氏名 森 廣子	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員			
時 間 数	120 時間	単位数	単 位	学習時期	学年	1 年生 期 前期後期 2 年生 前期
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> 自由選択
到達目標	「介護とは」何なのか、さまざまな面から捉え、自分なりの介護観を持つことができるようになる。					
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする 					
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・板書による講義を中心とする。 ・プロジェクターを用いて視覚的効果の高い授業を行う。 					

授業進行計画表		
回数	授業内容	時間数
1	介護の成り立ち（介護の基本Ⅰ）	2
2	「介護」の見方・考え方の変化	2
3	介護の専門性	2
4	生活とは何か	2
5	生活にとって大切な要素	2
6	社会的課題としての介護問題	2
7	「その人らしさ」と「生活ニーズ」	2
8	生活障害の理解	2
9	利用者にあった生活の場	2
10	「くつろぎの場」「安心できる場」の整備	2
11	介護職が行う生活支援	2
12	尊厳を支える介護	2
13	ノーマライゼーションの実現	2
14	介護における ICF のとらえ方	2
15	介護実践におけるリハビリテーションの考え方	中間確認試験
16	介護問題の背景と介護福祉士制度（介護の基本Ⅱ）	2
17	社会福祉士及び介護福祉士法	2
18	社会福祉士及び介護福祉士法に関連する諸規定	2
19	専門職能団体の持つ役割	2
20	介護実践における倫理	2
21	日本介護福祉士会倫理綱領	2
22	介護サービスの意味と特性	2
23	介護サービスの歴史と時代	2
24	介護サービスの種類と提供の場	2
25	高齢者の居宅サービス	2
26	ニーズ	2
27	ニーズ・パーソンセンタードケア	2

28	パーソンセンタードケア・ユマニチュード	2
29	ユマニチュード	2
30	中間確認試験	2
31	高齢者の施設サービス	2
32	高齢者の施設サービス	2
33	障害者の居宅サービス	2
34	他職種連携の意義と目的	2
35	地域連携の意義と目的	2
36	利用者を取り巻く地域連携の実際	2
37	安全確保の重要性	2
38	事故防止・安全対策のためのリスクマネジメント	2
39	生活の中のリスクと対策	2
40	生活の場での感染対策	2
41	介護という仕事の特徴	2
42	こころとからだの健康管理	2
43	労働環境の整備	2
44	労働安全の基本原則	2
45	修了試験	2
46	レクリエーションの基礎理論	2
47	レクリエーションの理解と歴史	2
48	レクリエーション支援の展開と方法	2
49	レクリエーション支援の目標と理念	2
50	レクリエーション支援者の役割	2
51	レクリエーション組織の役割と運営	2
52	ホスピタリティトレーニング	2
53	アイスブレイキング	2
54	アイスブレイキングの必要場面とそのプログラム	2
55	レクリエーション種目の実際	2
56	選択活動種目 スポーツ系	2
57	選択活動種目 自然活動系	2
58	選択活動種目 ものづくり系	2
59	選択活動種目 暮らし遊び系	2
60	修了発表	2

成績評価の方法・基準

(試験やレポートの評価基準など)

出席状況、授業態度と試験及びレポート提出により評価

使用教材・参考文献

中央法規 新・介護福祉士養成講座 第3巻「介護の基本Ⅰ」第4巻「介護の基本Ⅱ」
日本レクリエーション協会編 やさしいレクリエーション実践

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程		
科 目 名	(介護の基本) リハビリテーション論	授業方法	■ 講義	■ 実技	□ 実習
授業概要	リハビリテーションの基礎的学習に併せて、様々な障害や疾病の理解を深める。 また、施設・社会におけるリハビリテーションの事例演習で、実践的な知識を学ぶ。				
担当講師	氏名 川副 巧成	■	実務経験を有する教員		
時 間 数	60 時間	単位数	単 位	学習時期	学年 2 年生 期 前後期
科目区分	■ 専門	□ 一般	履修区分	■ 必修	□ 選択 □ 自由選択
到達目標	リハビリテーションの理念と基本原則を理解し、実践に役立つ社会的リハビリテーションの専門技術と知識が身につく。				
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする 				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・板書による講義を中心とする。 ・プロジェクターを用いて視覚的効果の高い授業を行う。 ・レクリエーションの演習を行う。 				

授業進行計画表		
回数	授業内容	時間数
1	施設の機能と目的、家庭での生活を目指して	2
2	施設生活の長所と短所、施設入居者の理解	2
3	処遇とリハビリテーション	2
4	ADLとQOL	2
5	新しい環境適応のために	2
6	豊かな人間関係のために	2
7	欲求を満たすこと、意欲を阻害するものとの対処の仕方	2
8	アクティブ・リスニング、からだの異常の訴え	2
9	歩ける人のリハビリテーション	2
10	立てるが歩けない人のリハビリテーション	2
11	一人で起きられるが立てない人のリハビリテーション	2
12	一人で起きられないが起こせば座っていただける人のリハビリテーション	2
13	何とか起こせる人のリハビリテーション	2
14	どうしても起こせない人のリハビリテーション	2
15	試験	2
16	グループ活動の意義、グループ活動の選択	2
17	機能維持的な視点からみたレクリエーション	2
18	精神機能からみたレクリエーション	2
19	グループ活動・レクリエーションの実際	2
20	演習	2
21	〃	2
22	認知症の理解と対応	2
23	不安を忘れられる場の提供（作業療法とレクリエーション）	2
24	不安を忘れられる場の提供（演習）	2
25	認知症老人のグループ活動の実際 ～事例検討～	2

26	コミュニケーション障害	2
27	コミュニケーション障害者のリハビリ ～個別編～	2
28	コミュニケーション障害者のリハビリ ～集団編～	2
29	介護者のリハビリ	2
30	修了試験	2

成績評価の方法・基準

(単位認定のレポートの評価基準等) 試験の結果、出席状況による評価

使用教材・参考文献

メヂカルフレンド社 「リハビリテーション論」

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程		
科 目 名	(コミュニケーション技術) コミュニケーション技術	授業方法	■ 講義	□ 実技	□ 実習
授業概要	様々な対象者、様々な場面を想定して、コミュニケーションの取り方を実践的に学ぶ。				
担当講師	氏名 大峰 史子	■	実務経験を有する教員		
時 間 数	30 時間	単位数	単 位	学習時期	学年 2 年生 期 前期
科目区分	■ 専門	□ 一般	履修区分	■ 必修	□ 選択 □ 自由選択
到達目標	介護福祉士としての専門的知識及び技術の基本要件の修得をはかりつつ、援助者としての自己覚知ができるようになる。				
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする 				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・板書による講義を中心とする。 ・プロジェクターを用いて視覚的効果の高い授業を行う。 				

授業進行計画表

回数	授業内容	時間数
1	コミュニケーションの意義と目的	1
2	コミュニケーションの基本	1
3	利用者・家族との信頼関係の形成	1
4	利用者を深く理解するためのコミュニケーション	1
5	コミュニケーション願望と介護の特性	1
6	話を聞く技法	1
7	利用者の感情・表情を観察する技法	1
8	利用者の感情・表情を観察する技法〔事例検討〕	1
9	納得と同意を得る技法	1
10	質問の技法	1
11	利用者の理解を深める質問の技法〔事例検討〕	1
12	相談・助言・指導の技法	1
13	利用者の意欲を引き出す技法	1
14	利用者の意欲を引き出す技法〔事例検討〕	1
15	まとめ・中間確認試験	1
16	利用者と家族の意向を調整する技法	1
17	複数の利用者がある場面でのコミュニケーション	1
18	複数の利用者がある場面でのコミュニケーション〔事例検討〕	1
19	コミュニケーション障害とは	1
20	コミュニケーション障害のある利用者を支えるコミュニケーション技術	1
21	コミュニケーションの方法を立案し、実践する技術	1
22	高次脳機能障害の特性に応じたコミュニケーション技術	1
23	認知症の特性に応じたコミュニケーション技術	1
24	聴覚障害の特性に応じたコミュニケーション技術	1
25	チームのコミュニケーションとは	1
26	記録の意義と目的	1
27	「報告」「連絡」「相談」の意義と目的	1

28	会議の意義と目的	1
29	コミュニケーションについてのまとめ（グループワーク）	1
30	修了試験	1

成績評価の方法・基準

(試験やレポートの評価基準等)

出席状況と試験の結果、レポートにより評価

使用教材・参考文献

中央法規 新・介護福祉士養成講座 第5巻「コミュニケーション技術」

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程		
科 目 名	(生活支援援助) 手話	授業方法	■ 講義	■ 実技	□ 実習
授業概要	聴覚、言語障害と関連する医学の基礎知識、聴覚障害の特性、コミュニケーションの方法（筆談、読話、手話等）を習得し、重複（盲聾）障害者について理解する。				
担当講師	氏名	ろうあ協会派遣教員	□	実務経験を有する教員	
時 間 数	30 時間	単位数	単位	学習時期	学年 1 年生 期 後期
科目区分	□ 専門	□ 一般	履修区分	■ 必修	□ 選択 □ 自由選択
到達目標	聴覚障害者についての知識、理解を深め、きこえない人とのコミュニケーションができる。特に、手話で簡単な日常会話ができる。				
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする 				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・板書による講義、プロジェクターを用いて視覚的効果の高い授業を行う。 ・指導者の指示に従い、手話の実践をする。 				

授業進行計画表		
回数	授業内容	時間数
1	聴覚障害の基礎知識 聴覚と言語機能のしくみと医学的理解 聞こえないということはどういうことか考える	2
2	手話の基礎知識 名前の紹介をしましょう	2
3	手話の基礎知識 家族を紹介しましょう	2
4	聴覚障害者の生活について話し合ってみよう	2
5	講演 「聴覚障害者の生活・願い」～ 一般社団法人長崎県ろうあ協会 ～	2
6	手話の基礎知識 趣味について話しましょう	2
7	手話の基礎知識 数字を使って話しましょう	2
8	手話の基礎知識 仕事について話しましょう	2
9	手話の基礎知識 自己紹介をしましょう ～ まとめ ～	2
10	手話の基礎知識 フリートーク	2
11	盲ろうとは？ 盲ろう者とのコミュニケーションについて	2
12	盲ろう者とのコミュニケーション体験	2
13	ろうあ者との交流 実践	2
14	まとめ 「手話で会話をしてみましょう！」	2
15	修了試験 「筆記・実技」	2

成績評価の方法・基準
(試験やレポートの評価基準等)
出席状況と試験・課題レポートにより評価

使用教材・参考文献
一ツ橋出版 「聴覚・言語障害者とコミュニケーション」
(財)全日本ろうあ連盟出版局 「入門 新手話教室」

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程			
科 目 名	(生活支援援助) 点字	授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input checked="" type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習	
授業概要	視覚障害者にとっての点字の位置づけ並びにその歴史と点訳の実践。(通常は点字版を使用。 また、点字文の読みと課題文についてのレポート提出を随時行う。)					
担当講師	氏名	筒井 昭子	<input type="checkbox"/> 実務経験を有する教員			
時 間 数	30 時間	単位数	単 位	学習時期	学 年	1 年生 期 後期
科目区分	<input type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> 自由選択
到達目標	点字・点訳の技術を修得し、実践に役立たせること。					
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする 					
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・板書による講義を中心とする。 ・点字の演習をする。 					

授業進行計画表

回数	授業内容	時間数
1	視覚障害と視覚障害者の実情、視覚障害者にとっての点字の位置づけ及び歴史	2
2	点字・点訳の基礎 (点字板の使い方、点訳の基本事項)	2
3	点字・点訳の基礎 (点字かなの構成、五十音)	2
4	点字・点訳の基礎 (基本的なかなづかい)	2
5	点字・点訳の基礎 (語の書き表し方)	2
6	点字・点訳の基礎 (数字と数字を含む語の書き表し方)	2
7	点字・点訳の基礎 (アルファベットとアルファベットを含む語の書き表し方)	2
8	点字・点訳の基礎 (分かち書き 1 - 自立語)	2
9	点字・点訳の基礎 (分かち書き 2 - 付属語)	2
10	点字・点訳の基礎 (分かち書き 3 - 複合語)	2
11	点字・点訳の基礎 (分かち書き 4 - 固有名詞)	2
12	点訳 (記号・符号の使い方)	2
13	点訳 (書き方の形式 - 手紙、表など)	2
14	まとめ	2
15	修了試験	2

成績評価の方法・基準

(試験やレポートの評価基準等)
出席状況と授業態度、試験結果により評価

使用教材・参考文献

全国視覚障害者情報提供施設協会 「点訳の手引」
全国視覚障害者情報提供施設協会 参考書「初めての点訳」

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程			
科 目 名	(生活支援援助) 生活支援技術 I 生活	授業方法	■ 講義	□ 実技	□ 実習	
授業概要	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から本人主体の生活の継続ができるよう。生活支援について理解する。					
担当講師	氏名 酒井 利恵	■	実務経験を有する教員			
時 間 数	20 時間	単位数	単 位	学習時期	学 年	1 年生 期 前期
科目区分	■ 専門	□ 一般	履修区分	■ 必修	□ 選択	□ 自由選択
到達目標	生活がどのような側面から構成されているかを理解する。 生活について、人間の発達段階と関連づけて理解する。 生活支援の対象者や生活支援の考え方、ICFについて理解する					
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする 					
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・板書による講義を中心とする。 ・プロジェクターを用いて視覚的効果の高い授業を行う。 					

授業進行計画表		
回数	授業内容	時間数
1	生活とは	2
2	生活形成のプロセス	2
3	生活支援の対象者	2
4	生活支援の考え方	2
5	ICF の視点に基づくアセスメント	2
6	生活支援と介護過程	2
7	生活支援と介護過程	2
8	根拠のある生活支援技術	2
9	生活支援とチームアプローチ	2
10	修了試験	2

成績評価の方法・基準
(試験やレポートの評価基準等)
出席状況と試験結果により評価

使用教材・参考文献
中央法規 新・介護福祉士養成講座 第6巻 「生活支援技術 I」

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程		
科 目 名	(生活支援援助) 生活支援技術Ⅰ 栄養	授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習
授業概要	時代や社会の変化、進歩に即応した食生活の内容を学習する。				
担当講師	氏名 松本 妙子	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員		
時 間 数	20 時間	単位数	単 位	学習時期	学年 1 年生 期 前期
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択 <input type="checkbox"/> 自由選択
到達目標	高齢者や障害者の望ましい食生活のあり方についての基礎的な知識を修得する。				
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする 				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・板書による講義を中心とする。 ・プロジェクターを用いて視覚的効果の高い授業を行う。 				

授業進行計画表		
回数	授業内容	時間数
1	身体の機能と栄養素の関係（栄養と健康、栄養素の機能）について	2
2	身体の機能と栄養素の関係（栄養と生体リズム、消化吸収）について	2
3	食品の成分と保存・管理知識	2
4	調理の概要と各種調理手法の特性	2
5	植物性・動物性食品の調理性	2
6	調理用設備・エネルギー源・調理器具の特性	2
7	老人・障害者の食生活の在り方	2
8	食事と生活習慣病の関係	2
9	食品衛生法の概要と解説	2
10	修了試験	2

成績評価の方法・基準
(試験やレポートの評価基準等)
出席状況と試験結果により評価

使用教材・参考文献
中央法規 新・介護福祉士養成講座 第6巻 「生活支援技術Ⅰ」

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程		
科 目 名	(生活支援援助) 生活支援技術 I 被服	授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習
授業概要	○家庭生活の意義、家庭経営、家庭管理、家庭経済について。 ○被服の役割と機能、素材、選択と管理、高齢者・障害者の被服について。				
担当講師	氏名 太田 道子	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員		
時 間 数	10 時間	単位数	単 位	学習時期	学年 1 年生 期 後期
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択 <input type="checkbox"/> 自由選択
到達目標	○家庭生活の意義、家庭経営、家庭管理・家庭経済について理解する。 ○被服の役割と機能、素材、選択と管理、高齢者・障害者の被服について理解する。 ○「家庭生活・被服生活と福祉（介護）について」の各自の課題レポートを作成する。				
準備学習の内容	・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする				
授業の進め方	・板書による講義を中心とする。 ・プロジェクターを用いて視覚的効果の高い授業を行う。				

授業進行計画表		
回数	授業内容	時間数
1	家庭経営の在り方（ライフコース、生活設計等）	2
2	家庭管理（生活時間、家計費の在り方、高齢者・障害者の経済生活）	2
3	被服の役割と機能について（肌着の役割、衣料障害等）	2
4	被服の素材（被服材料・繊維・布についての理解、布の改質と加工）	2
5	被服の選択と管理（JIS 表示法・品質表示法、洗濯・しみ抜き等）	2

成績評価の方法・基準
(試験やレポートの評価基準等) 出席状況と試験結果により評価

使用教材・参考文献
中央法規 新・介護福祉士養成講座 第 6 巻 「生活支援技術 I」

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程		
科 目 名	(生活支援援助) 生活支援技術 I 住居	授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習
授業概要	実際の住居の図面や写真（スライド）を通して住居の機能を把握していく。				
担当講師	氏名 井上 正雄	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員		
時 間 数	20 時間	単位数	単 位	学習時期	学年 1 年生 期 後期
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択 <input type="checkbox"/> 自由選択
到達目標	介護施設や家庭生活の中での自立に向けた住環境の整備とは、どのようなものか理解できるようになる。また、住環境のアセスメント力が身につく。				
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする 				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・板書による講義を中心とする。 ・プロジェクターを用いて視覚的効果の高い授業を行う。 				

授業進行計画表		
回数	授業内容	時間数
1	住居の役割と機能①住居の役割 ②家族と住居	2
2	住居の役割と機能③住居と地域	2
3	生活行動と生活空間①生活行動の基本的要素	2
4	生活行動と生活空間②住宅平面の計画	2
5	快適な室内環境①室内環境の調節 ②光の調節	2
6	快適な室内環境③室内気候の調節 ④音の調節	2
7	住居の管理と安全①住居の維持・管理 ②住居の衛生管理 ③災害と事故	2
8	高齢者、障害者と住生活①自立した生活の条件づくり	2
9	高齢者、障害者と住生活②住環境の整備 ③住まいと地域生活	2
10	試験	2

成績評価の方法・基準 (試験やレポートの評価基準等) 出席状況と試験結果、課題レポートにより評価

使用教材・参考文献 中央法規 新・介護福祉士養成講座 第6巻 「生活支援技術 I」 副読本
--

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科			専門課程	教育・社会福祉専門課程				
科 目 名	(生活支援援助) 家政学実習（栄養・調理）			授業方法	<input type="checkbox"/> 講義	<input checked="" type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習		
授業概要	調理実習を通じて、年齢や疾病、障害に応じた食事形態を理解する。								
担当講師	氏名	松本 妙子・山下 忍		<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員				
時間数	30 時間	単位数	単位	学習時期	学年	1 年生	期	後期	
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> 自由選択			
到達目標	楽しく安全で、健康を維持し、自立した食生活を考えることができるようになる。 調理方法の基礎知識と技術が身につく。食中毒を予防するための、正しい衛生管理を身につける。								
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする 								
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・調理実習を行い、調理方法を身に付ける。 								

授業進行計画表		
回数	授業内容	時間数
1.2	基本の和食（豆茶飯、炊飯の基本、味噌汁、いりこ出汁の取り方、玉葱入りオムレツ、酢のもの、きゅうりとわかめ）	4
3.4	基本の洋食（豆腐ハンバーグ ラッシー、ポテトサラダ、ブロッコリーのおろし和え）	4
4.5	和食の調理（ちらし寿司、豚肉の生姜焼き、月見汁 白玉粉の扱い、かつお出汁の取り方）	4
6.7	和食の調理（鮭の南蛮漬け、ほうれん草の胡麻和え、厚揚げピザ 小豆ゼリー）	4
8.9	和食の調理（ぶりの照り焼き、肉じゃが、紅白なます、フレンチトースト）	4
10.11	高齢者の調理（芋粥、ほうれん草の白和え、カボチャのポタージュ、リンゴのコンポート）	4
11.12	高齢者の調理（ごはん団子の雑煮、鮭缶のテリーヌ、ジャガイモのトリュフ、牛乳茶碗蒸し）	4
	修了試験	2

成績評価の方法・基準 （試験やレポートの評価基準等） 出席状況と修了試験・実習態度により評価

使用教材・参考文献 中央法規 新・介護福祉士養成講座 第6巻 「生活支援技術Ⅰ」

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程			
科 目 名	(生活支援援助) 家政学実習（被服）	授業方法	■ 講義	■ 実技	□ 実習	
授業概要	○被服素材の鑑別方法、一般的な洗濯の仕方、保管方法等について学習する					
担当講師	氏名 太田 道子	■	実務経験を有する教員			
時 間 数	30 時間	単位数	単 位	学習時期	学年 1 年生 期 前期	
科目区分	■ 専門	□ 一般	履修区分	■ 必修	□ 選択	□ 自由選択
到達目標	高齢者・障害者の自立を助ける被服とは、どのようなものか分かる。 裁縫の基礎技術が身につく。 素材に応じた、アイロンがけや洗濯などができるようになる。					
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする 					
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・被服素材を使い、演習をする。 					

授業進行計画表		
回数	授業内容	時間数
1	家庭生活の経営と管理（家事（介護）作業計画表作成 等）	2
2	被服素材の特徴及び鑑別の実験	2
3	被服管理実験と学習（一般的な洗濯の仕方、漂白、しみぬき 等）	2
4	被服管理実験と実習（糊付け、アイロンのかけ方、衣類の保管 等）	2
5	高齢者・障害者のための被服デザイン・構成・色彩及び着脱の工夫	2
6	基礎実習1（ミシン基礎学習）	2
7	基礎学習2（手縫いの基礎実習）	2
8	介護用衣服の製作 ①作図	2
9	介護用衣服の製作 ②裁断	2
10	介護用衣服の製作 ③仮縫い点検	2
11	介護用衣服の製作 ④補正	2
12	介護用衣服の製作 ⑤本縫い	2
13	介護用衣服の製作 ⑥仕上げ	2
14	着脱構成の工夫	2
15	修了試験	2

成績評価の方法・基準 （試験やレポートの評価基準等） 出席状況・授業態度と製作物により評価

使用教材・参考文献 中央法規 新・介護福祉士養成講座 第6巻 「生活支援技術Ⅰ」
--

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学科名	介護福祉科			専門課程	教育・社会福祉専門課程				
科目名	(生活支援技術) 生活支援技術Ⅱ			授業方法	<input type="checkbox"/> 講義	<input checked="" type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習		
授業概要	「こころとからだのしくみ」で学んだ基礎知識をもとに、学生同士で介護者・利用者を体験することで、安全・安楽な介護技術を高めていく。								
担当講師	氏名	坂本大樹 友永隆文 立川百合恵 酒井利恵 山下忍			<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員			
時間数	170	時間	単位数	単位	学習時期	学年	1 年生	期	前後期
						2 年生			前期
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> 自由選択			
到達目標	○個人の疾病や心身の状態、環境について、適切な介護技術を考え、実践できる力がつく。 ○ボディメカニクスを活用した安全・安楽な介護技術力が身につく。								
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする 								
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・実技科目のため、講師の指示に従って実技を行う。 ・数名の学生で一組になり、相互に実技を行う。 								

授業進行計画表		
回数	授業内容	時間数
1	生活支援技術とは	2
2	介護技術に必要な基礎知識	2
3	睡眠の介護 アセスメントの視点	2
4	睡眠の介護 ベッドメイキングの手順	2
5	睡眠の介護 ベッドメイキングの方法	2
6	睡眠の介護 実践	2
7	睡眠の介護 実践	2
8	移動の介護 アセスメントの視点 上方移動	2
	移動の介護 水平移動 体位変換（対面法・背面法）	
9	移動の介護 体位変換（下肢に力が入らない人の介助）	2
10	起き上がり（一部介助）	2
11	移動の介護 起き上がり（下肢に力が入らない人の介助）	2
12	移動の介護 起き上がり（車いすの使用方法）	2
13	移動の介護 起き上がり（車いすへの移乗：一部介助）	2
14	移動の介護 起き上がり（車いすへの移乗：一部介助）	2
15	移動の介護 起き上がり（車いすへの移乗：一部介助）	2
16	移動の介護 起き上がり（車いすへの移乗：全介助）	2
17	移動の介護 起き上がり（車いすへの移乗：全介助）	2
18	移動の介護 起き上がり（車いすへの移乗：全介助）	2
19	移動の介護 上方移動～起き上がり まとめ	2
20	移動の介護 歩行の介助（一部介助）	2
21	移動の介護 歩行の介助（階段・段差の昇降）	2
22	移動の介護 実践	2
23	移動の介護 実践	2
24	移動の介護 実践	2

25	食事の介護	アセスメントの視点（座位・ベッドでの介助）	
26	食事の介護	（座位・ベッドでの介助と水分補給の介助）	2
27	食事の介護	実践	2
28	身じたくの介護	アセスメントの視点 整容の介助（洗面・整髪）	2
29	身じたくの介護	整容の介助（髭剃り・爪切り・点眼・口腔ケア）	2
30	身じたくの介護	衣類脱着の介助（上衣・前開き）	2
31		〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕	2
32	身じたくの介護	衣服脱着の介助（上衣・かぶり）	2
33	身じたくの介護	衣服脱着の介助（ズボン 靴下） 座位での介助（一部）	2
34	身じたくの介護	座位での介助（全介助）	2
35	身じたくの介護	座位での介助（全介助）	2
36	身じたくの介護	ベッド上での介助（全介助）	2
37	身じたくの介護	座位での介助（全介助）	2
38	身じたくの介護	衣服の着脱介助（見守り～全介助）	2
39	身じたくの介護	まとめ	2
40	身じたくの介護	実践	2
41	身じたくの介護	実践	2
42	入浴の介護	（機械浴・一般浴）	2
43	入浴の介護		2
44	入浴の介護	（手浴）	2
45	入浴の介護	（足浴）	2
46	入浴の介護	（清拭）	2
47	入浴の介護	（洗髪）	2
48	排泄の介護	アセスメントの視点 トイレでの介助	2
49	排泄の介護	トイレでの介助	2
50	排泄の介護	トイレでの介助	2
51	排泄の介護	Pトイレでの介助	2
52	排泄の介護	Pトイレでの介助	2
53	排泄の介護	Pトイレでの介助	2
54	排泄の介護	ベッド上での介助	2
55	排泄の介護	ベッド上での介助	2
56	排泄の介護	ベッド上での介助	2
57	排泄の介護	ベッド上での介助	2
58	排泄の介護	まとめ	2
59	排泄の介護	まとめ	2
60	確認試験		2
61	確認試験		2
62	障害に応じた介護	（視覚・聴覚障害）	2
63	障害に応じた介護	（視覚・聴覚障害）	2
64	視覚障害者の介護	実践	2
65	視覚障害者の介護	実践	2
66	障害に応じた介護	（運動機能・内部障害）	2
67	障害に応じた介護	（運動機能・内部障害）	2
68	オストメイトの介護		2
69	障害に応じた介護	実践	2
70	障害に応じた介護	実践	2

71	障害に応じた介護（知的・精神障害）	2
72	障害に応じた介護（重度身体障害）	2
73	障害に応じた介護（重度身体障害）	2
74	障害に応じた介護（重度身体障害）	2
75	障害に応じた介護（認知症）	2
76	障害に応じた介護（認知症）	2
78	障害に応じた介護 まとめ	2
79	障害に応じた介護 まとめ	2
80	障害に応じた介護 まとめ	2
81	障害に応じた介護 まとめ	2
82	障害に応じた介護 まとめ	2
83	障害に応じた介護 まとめ	2
84	障害に応じた介護 まとめ	2
85	障害に応じた介護 まとめ	2

成績評価の方法・基準

（試験やレポートの評価基準等）

出席状況と実技試験により評価

使用教材・参考文献

中央法規 新・介護福祉士養成講座
第7巻 「生活支援技術Ⅱ」

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程					
科 目 名	(介護過程) 記録	授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習			
授業概要	介護現場のさまざまな場面で使われる記録力を習得する。							
担当講師	氏名	山下 忍	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員				
時 間 数	30 時間	単位数	単 位	学習時期	学年	1 年生	期	前期
						2 年生		後期
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> 自由選択		
到達目標	適切な言葉を用いて記録を残すことができ、連携に用いることができる							
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする 							
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・板書による講義を中心とする。 ・プロジェクターを用いて視覚的効果の高い授業を行う。 							

授業進行計画表		
回数	授業内容	時間数
1	語句の定義	2
2	「対義語」と「類義語」	2
3	「語句の状況」と「熟語の完成」	2
4	漢字能力検定 模擬試験	2
5	「異質語句の選択」と「短文の完成」	2
6	「語句の用例」と「会話文の完成」	2
7	「漢字の読み・書き」	2
8	介護現場における記録物について	2
9	フェースシート	2
10	経過記録	2
11	アセスメントシート	2
12	介護計画	2
13	モニタリング	2
14	事例発表の方法	2
15	検定試験	2

成績評価の方法・基準 (試験やレポートの評価基準等) 出席状況と試験結果により評価
--

使用教材・参考文献 旺文社 生涯学習検定委員会監修 「実用日本語 語彙力検定3級」 中央法規 「介護記録の書き方・読み方・活かし方」
--

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程			
科 目 名	介護過程	授業方法	■ 講義	□ 実技	□ 実習	
授業概要	テキスト及び、2段階実習までに実際に学生が体験した介護状況から得られる情報を基にした資料などを用いて実践的に学ぶ。					
担当講師	氏名	山下 忍	■	実務経験を有する教員		
時 間 数	60 時間	単位数		単位	学習時期	学年 2 年生 期 後期
科目区分	■ 専門	□ 一般	履修区分	■ 必修	□ 選択	□ 自由選択
到達目標	介護過程の一連の流れが理解できる。 ○個々の課題（ニーズ）は何か注目することができる。 ○介護計画（ケアプラン）の一連の流れが理解できる。					
準備学習の内容	・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする					
授業の進め方	・板書による講義を中心とする。 ・プロジェクターを用いて視覚的効果の高い授業を行う。 ・研究した事例を発表する。					

授業進行計画表

回数	授業内容	時間数
1	介護過程の意義・目的、展開の基本視点を学ぶ	2
2	生活支援の考え方と介護過程の必要性の理解 介護過程の理解	2
3	介護過程の理解（アセスメント）	2
4	介護過程の理解（アセスメント表）	2
5	介護過程の理解（計画の立案）	2
6	介護過程の理解（実施）	2
7	介護過程の理解（評価）	2
8	介護過程の理解（評価）	2
	利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開	
9	} アセスメントの実際（在宅生活を望む生活支援の事例1）	2
10		2
11	} アセスメントの実際（在宅生活の継続の事例2）	2
12		2
13	} アセスメントの実際（老健で終末期を迎える事例3）	2
14		2
15	修了試験	2
16	} アセスメントの実際（グループホームでの生活支援の事例4）	2
17		2
18	} アセスメントの実際（身体障害者療護施設での生活支援の事例5）	2
19		2
	「介護過程」展開の実際	
20	} 介護老人福祉施設で生活する方の展開事例	2
21		2
22	介護老人保健施設で生活する方の展開事例	2
23	} 介護老人保健施設で生活する方の展開事例	2
24		2

25	} 身体障害者療護施設で生活する方の展開事例	2
26		2
27		2
28	介護過程とケアマネジメントの関係性	2
29	チームアプローチにおける介護福祉士の役割	2
30	修了試験	2

成績評価の方法・基準

(試験やレポートの評価基準など)

出席状況及び筆記試験にて評価

使用教材・参考文献

中央法規 新・介護福祉士養成講座

第9巻 「介護過程」

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程					
科 目 名	介護過程（事例 卒業研究）	授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習			
授業概要	「介護過程」の学習をもとに、実習での「介護計画」の一連までを、検証し研究する。							
担当講師	氏名	山下 忍	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員				
時 間 数	60 時間	単位数	単 位	学習時期	学 年	2 年 生	期	後 期
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> 自由選択		
到達目標	1. 利用者の状況に応じた介助方法について説明することができる。 2. 介護実践における介護過程の意義や目的ならびに、アセスメント・計画作成・実施・モニタリング・記録の内容と具体的方法を説明できる。 3. 施設内におけるチームケアの必要性及び重要性を説明できる。 4. 情報収集の必要性・重要性や具体的な方法について説明することができる。							
準備学習の内容	・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする							
授業の進め方	・板書による講義を中心とする。 ・プロジェクターを用いて視覚的効果の高い授業を行う。							

授業進行計画表

回数	授業内容	時間数
1. 2	2段階実習での情報収集の検証	4
3. 4	3段階実習でのアセスメントシートの検証	4
5. 6	3段階実習でのアセスメントシートの検証	4
7. 8	3段階実習での介護計画書の検証	4
9. 10	3段階実習での介護計画書の検証	4
11. 12	計画修正の必要性の検討	4
12. 13	計画修正の必要性の検討 研究的視点	4
14. 15	ケアプラン研究①	4
16. 17	ケアプラン研究②	4
18. 19	ケアプラン研究③	4
20. 21	ケアプラン研究④	4
22. 23	ケアプラン研究⑤	4
24. 25	ケアプラン研究⑥	4
26. 27	} 研究発表	4
28. 29. 30		4

成績評価の方法・基準

（単位認定のレポートの評価基準等）
 試験の結果、研究発表による評価

使用教材・参考文献

日本介護福祉士養成施設協会編
 介護福祉士養成テキスト2
 介護の基本 介護過程

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程			
科 目 名	(介護総合演習)	授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習	
授業概要	1. 介護実習の目的や福祉の現場のイメージができるよう具体例をあげて授業を行う。 2. 専任教員それぞれが連携し授業を進める。 3. 学生の発言力、文章力を高めるためグループワーク、発表を多く取り入れる。					
担当講師	氏名	立川 百合恵 山下 忍 酒井 利恵	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員		
時 間 数	120 時間	単位数	単 位	学習時期	学年	1 年生 期 後期 2 年生 前期
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> 自由選択
到達目標	1. 介護実習の目的と意義を理解する 2. 介護老人福祉施設・介護老人保健施設の機能、特徴、利用者像を理解する。 3. 実習後学習において、自己の評価を客観的に行い、実習Ⅱへの主体的な準備ができる。					
準備学習の内容	・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする					
授業の進め方	・板書による講義を中心とする。 ・プロジェクターを用いて視覚的効果の高い授業を行う。 ・事例研究を発表する。					

授業進行計画表

回数	授業内容	時間数
1	介護総合演習の位置づけと目的 実習Ⅰと実習Ⅱの概要	2
2	本校マニュアルの説明	2
3	介護老人福祉施設・介護老人保健施設について（法人、制度）	2
4	実習Ⅰの予定、誓約書、個人票の配布と記入	2
5	スーパービジョン	2
6	オリエンテーション（事前訪問）についての注意点	2
7	記録の重要性と実習日誌の書き方	2
8	カンファレンス、反省会の方法（ロールプレイング）	2
9	実習の心得、マナー、エチケット	2
10	実習計画書の作成	2
11	実習宣誓式の準備	2
12	実習宣誓式	2
13	1段階実習の目標に対する反省	2
14	1段階実習の目標に対する反省	2
15	1段階実習の学び グループワーク	2
16	1段階実習の学び グループワーク	2
17	1段階実習の学び グループワーク	2
18	1段階実習の学び（発表）	2
19	1段階実習の学び（発表）	2
20	試験	2
21	2段階施設実習の概要について	2
22	「介護とは何をする事なのか」サービスの内容と利用者の権利について	2

23	居宅サービスとは	2
24	情報収集について（事例演習）	2
25	観察演習	2
26	目標設定	2
27	レクリエーション準備	2
28	レクリエーション準備	2
29	実技確認	2
30	実技試験	2
31	実技試験	2
32	2段階実習の目標に対する反省（個人）	2
33	1年生へのスーパービジョン資料作り（施設ごと）	2
34	1年生へのスーパービジョン資料作り（施設ごと）	2
35	実習報告会準備	2
36	実習報告会準備	2
37	実習報告会準備	2
38	実習報告会	2
39	実習報告会	2
40	3段階実習の概要について	2
41	目標設定	2
42	介護計画 情報収集～アセスメント	2
43	情報収集～アセスメント	2
44	介護計画 問題抽出～プラン立案	2
45	問題抽出～プラン立案	2
46	介護計画 プラン実行～評価	2
47	プラン実行～評価	2
48	2段階で収集した情報をもとに演習①	2
49	2段階で収集した情報をもとに演習②プラン立案まで	2
50	記録用紙の説明と配布	2
51	「後指導」3段階実習の目標に対する反省（個人）	2
52	実習の学び（施設ごと） グループワーク	2
53	実習の学び（施設ごと） グループワーク	2
54	実習の学び（施設ごと） グループワーク	2
55	実習の学び（施設ごと） グループワーク	2
56	実習の学び（施設ごと） 発表会	2
57	実習の学び（施設ごと） 発表会	2
58	実習の学び（施設ごと） 発表会「	2
59	介護福祉士になるにあたっての決意文」作成	2
60	試験	2

成績評価の方法・基準

（試験やレポートの評価基準等）
出席状況と試験結果により評価

使用教材・参考文献

中央法規 新・介護福祉士養成講座
第10巻 「介護総合演習・実習」

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程					
科 目 名	(介護) 介護実習 I	授業方法	<input type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技	<input checked="" type="checkbox"/> 実習			
授業概要	施設の実習指導者の指導に従い、見学や見守り、職員と一緒に介護技術の確認を行う。 積極的に利用者・家族、職員とのコミュニケーションを図り、個々に応じた、適切なコミュニケーションの実践力を身につける。 通所サービス事業所、グループホーム、訪問介護事業所では、居宅生活の形態を理解し、必要とされるサービスについて理解する。							
担当講師	氏名	立川百合恵 山下忍 酒井利恵	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員				
時 間 数	160 時間	単位数	単位	学習時期	学年	1 年生	期	前期
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> 自由選択		
到達目標	支援を受けながら生活している人々を理解する。また、自ら学ぶ姿勢を持ち、積極的にコミュニケーションの実践や介護技術の確認などを行い、介護福祉士としての基本姿勢が身につく。							
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・実習前指導で実習方法を学ぶ。 ・実習施設までの経路を確認する。 							
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・各施設の実習指導担当者の指示に従い、現場での実習を行う。 							

授業進行計画表

回数	授業内容	時間数
	介護老人保健施設・介護老人福祉施設において5それぞれ5日間 計10日 ・施設内オリエンテーション、構造と各セクションの案内、各職員の業務、機能の理解 ・日常業務を通し、利用者の生活全般の理解 ・職員の利用者との接し方を観察し、それに対する利用者の反応を観察 ・多くの利用者としながらそれぞれの特性を観察し、どのように関わるか、共感的理解を意識したコミュニケーション技法の実践 ・介護者としての姿勢を学ぶ ・介護者としての姿勢を学ぶ 居宅サービス利用者の理解とサービス内容の理解 ・通所介護・通所リハビリテーションのいずれかで5日間実習 ・訪問介護事業所にて2日間 認知症のある人の理解とサービス内容の理解 ・グループホームで3日間	160

成績評価の方法・基準

(試験やレポートの評価基準等)

出席状況と試験結果

使用教材・参考文献

中央法規 新・介護福祉士養成講座
第10巻 「介護総合演習・実習」

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程					
科 目 名	(介護) 介護実習Ⅱ	授業方法	<input type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技	<input checked="" type="checkbox"/> 実習			
授業概要	・実習施設Ⅱでは、施設の実習指導者の指導のもと、個々に応じた自立支援にむけた介護技術を実践し、個別ケアの理解のため、対象者を決めて情報収集を行う。							
担当講師	氏名	立川百合恵 山下 忍 酒井利恵	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員				
時 間 数	296 時間	単位数	単 位	学習時期	学年	1 年生	期	後期
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> 自由選択		
到達目標	さまざまな生活の形態を知り、必要とされるサービスは何かという観察視点を持つことができるようになる。また、そのサービス提供のために、関係する多職種の理解と協働・連携の必要性について理解できるようになる。							
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・実習前指導で実習方法を学ぶ。 ・実習施設までの経路を確認する。 							
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・各施設の実習指導担当者の指示に従い、現場での実習を行う。 							

授業進行計画表

回数	授業内容	時間数
	実習施設Ⅱ（特別養護老人ホーム・老人保健施設）にて 37 日間 <ul style="list-style-type: none"> ・介護技術の確認と実践 ・多職種の理解と協働・連携についての理解 ・介護過程を実践 利用者の抱える課題について注目しながら、コミュニケーションを図る 情報収集・アセスメントを行い、利用者の課題を明確にする 職員の助言や指導をもとに、利用者の意向を取り入れたプランの立案 利用者の状態に合せながらプランを実行し、観察する 評価を行い、プランの継続や改善点を考察する。	296

成績評価の方法・基準

(試験やレポートの評価基準等)

出席状況と実習評価

使用教材・参考文献

中央法規 新・介護福祉士養成講座
第 1 4 巻 「介護総合演習・実習」

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程		
科 目 名	(発達と老化の理解) 発達と老化の理解	授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習
授業概要	身体の構造や機能、疾病や日常生活における障害を、事例や資料を併せ、学習していく。				
担当講師	氏名 荒木 美和	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員		
時 間 数	60 時間	単位数	単 位	学習時期	学年 1 年生 期 後期
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択 <input type="checkbox"/> 自由選択
到達目標	介護福祉士として必要な基礎的な医学の知識を身につけることにより、利用者の状態の変化を的確に捉えることができるようになる。不可逆的な老化が生活の変化にどう関わるのかを知る。				
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする 				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・板書による講義を中心とする。 ・プロジェクターを用いて視覚的効果の高い授業を行う。 				

授業進行計画表

回数	授業内容	時間数
1	発達とは	2
2	人間の発達段階と発達課題／発達と個人差	2
3	老化とは／老年期の発達課題と留意点	2
4	老化の及ぼす心理的影響	2
5	老いの価値観・受容	2
6	高齢者のこころの問題と精神障害	2
7	老化に伴う外見上の変化と日常生活への影響（身体機能）	2
8	老化に伴う外見上の変化と日常生活への影響（姿勢・皮膚）	2
9	免疫機能の変化と日常生活への影響	2
10	感覚機能の変化と日常生活への影響（神経伝達）	2
11	感覚機能の変化と日常生活への影響（視機能）	2
12	感覚機能の変化と日常生活への影響（聴覚）	2
13	感覚機能の変化と日常生活への影響（嗅覚・味覚・平衡覚・触覚）	2
14	感覚機能の変化と日常生活への影響（皮膚感覚）	2
15	修了試験前期	2

16	咀嚼機能・消化機能の変化（咀嚼機能）	2
17	咀嚼機能・消化機能の変化（消化機能）	2
18	循環器の機能の変化	2
19	呼吸器の機能の変化	2
20	筋、骨、関節の機能の変化	2
21	泌尿器・生殖機能の変化	2
22	体温維持機能の変化	2
23	老化に伴う認知機能の変化	2
24	高齢者の症状・疾患の特徴	2
25	高齢者に多い症状・訴えとその留意点	2
26	高齢者に多い病気とその留意点	2
27	高齢者に多い病気とその留意点	2
28	高齢者に多い病気とその留意点	2
29	保健医療職との連携	2
30	修了試験後期	2

成績評価の方法・基準

（試験やレポートの評価基準など）

出席状況及び試験結果による評価

使用教材・参考文献

中央法規 最新介護福祉士養成講座

「発達と老化の理解」

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学科名	介護福祉科			専門課程	教育・社会福祉専門課程				
科目名	(認知症の理解) 認知症の理解			授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習		
授業概要	認知症に関する基礎知識さまざまな病気の原因や特徴・障害について学習する。								
担当講師	氏名	山下 忍		<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員				
時間数	30 時間	単位数	単位	学習時期	学年	1	年生	期	前期
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> 自由選択			
到達目標	認知症に関するさまざまな病気の原因や特徴・障害について区別ができる。								
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする 								
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・板書による講義を中心とする。 ・プロジェクターを用いて視覚的効果の高い授業を行う。 								

授業進行計画表

回数	授業内容	時間数
1	認知症を取り巻く状況 認知症の歴史	2
2	認知症の理念	2
3	認知症高齢者の現状と今後	2
4	認知症に関する行政の方針と施策	2
5	医学的側面から見た認知症の基礎 認知症による障害（記憶障害）	2
6	〃 （見当識障害）	2
7	認知症による障害（失語、失行、失認、その他）	2
8	認知症に間違えられやすい症状（うつ病）	2
9	〃 （せん妄）	2
10	認知症の原因となる主な病気の症状の特徴（アルツハイマー・脳血管性）	2
11	〃 （レビー小体病・ピック病）	2
12	〃 （クロイツフェルトヤコブ病・その他）	2
13	若年性認知症	2
14	検査・治療の実際	2
15	試験	2

成績評価の方法・基準

((試験やレポートの評価基準など)
試験の結果、出席状況などによる評価

使用教材・参考文献

中央法規 最新・介護福祉士養成講座
第12巻 「認知症の理解」

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程		
科 目 名	(認知症の理解) 認知症の介護	授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習
授業概要	認知症（若年性含む）の人やその家族に対する関わりについて考える。認知症が及ぼす生活や社会への影響について現状や課題を明らかにし協力者としての姿勢やありかたを学んでいく。				
担当講師	氏名 山下 忍	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員		
時 間 数	30 時間	単位数	単 位	学習時期	学年 1 年生 期 前期
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択 <input type="checkbox"/> 自由選択
到達目標	認知症の人に合った体の介護の方法を考えることができる。				
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする 				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・板書による講義を中心とする。 ・プロジェクターを用いて視覚的効果の高い授業を行う。 				

授業進行計画表

回数	授業内容	時間数
1	認知症を取り巻く状況	2
2	認知症ケアの理念と視点	2
3	認知症当事者の視点から見えるもの	2
4	認知症ケアの実際 パーソンセンタードケア	2
5	認知症ケアの実際 パーソンセンタードケア	2
6	認知症ケアの実際 アセスメント	2
7	認知症ケアの実際 アセスメント	2
8	認知症ケアの実際 コミュニケーション	2
9	認知症ケアの実際 食事、排泄、入浴、清潔保持、休息と睡眠 活動 生きがい	2
10	認知症ケアの実際 ユマニチュード バリデーション 回想法	2
11	認知症ケアの実際 認知症の人の終末期 医療と介護	2
12	認知症ケアの実際 環境づくり	2
13	介護者支援 家族・介護福祉職	2
14	認知症の人の地域生活支援	2
15	修了試験	2

成績評価の方法・基準

((試験やレポートの評価など)
試験の結果、出席状況、グループワーク
などによる学習参加の様子評価

使用教材・参考文献

中央法規 最新・介護福祉士養成講座
第12巻「認知症の理解」 事例 プリント等

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科			専門課程	教育・社会福祉専門課程					
科 目 名	障害の理解			授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習			
授業概要	<p>1. 障害（身体・精神障害・知的障害）の形態に応じた具体的な介護技術や知識、各種福祉用具の理解と介助方法の習得、及び保健医療福祉関係者との連携の必要性を理解する。</p> <p>2. 居宅での介護の理解と家族への援助、関係者との連携の必要を理解する。</p>									
担当講師	氏名	立川百合恵 山下 忍			<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員				
時 間 数	60 時間	単位数	単位	学習時期	学年	1 年生	期	後期		
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> 自由選択				
到達目標	<p>○さまざまな障害についての基礎知識を習得する。</p> <p>○障害のある人の心理的側面に注目しながら、適切な技術の提供を考えることができる。</p>									
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする 									
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・板書による講義を中心とする。 ・プロジェクターを用いて視覚的効果の高い授業を行う。 									

授業進行計画表

回数	授業内容	時間数
1	障害の概念・障害者福祉の基本理念・ICF	2
2	障害者の法的定義	2
3	肢体不自由（運動機能障害）のある人	2
4	医学的理解	2
5	運動機能と心理的影響	2
6	肢体不自由の原因疾患 脳性麻痺	2
7	肢体不自由の原因疾患 脊髄損傷・損傷部位ごとの障害レベルの理解	2
8	肢体不自由の原因疾患 脊髄損傷・日常生活への援助	2
9	肢体不自由の原因疾患 脳血管疾患	2
10	肢体不自由の原因疾患 脳血管疾患・介護における留意点	2
11	肢体不自由の原因疾患 パーキンソン病	2
12	高次脳機能障害のある人	2
13	視覚障害のある人 基本姿勢・歩行移動	2
14	視覚障害のある人 基本姿勢・歩行移動	2
15	前期中間試験	2
16	内部障害「心臓機能障害」のある人疾患・心機能の理解と生活の支援	2
17	内部障害「腎臓機能障害」のある人腎障害と生活の理解	2
18	内部障害「呼吸機能障害」のある人疾患・呼吸機能の理解	2
19	内部障害「膀胱・直腸機能障害」のある人医学的理解・心理的理解と生活	2
20	支援	2
21	内部障害「ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害・肝臓機能障害」の	2
22	ある人	2
23	難病のある人 支援制度 疾患の特徴と支援	2
24	精神障害のある人 医学的理解と支援制度・かかわりと連携	2
25	発達障害のある人 医学的理解と生活理解・支援制度	2

26	知的障害のある人	2
27	医学的理解と支援制度・生活の充実	2
28	重症心身障害のある人	2
29	生活の特性と医療支援	2
30	連携と協働・家族への支援 サポート体制・福祉用具・社会活動 まとめ 修了試験	2

成績評価の方法・基準

(試験やレポートの評価基準等)

試験の結果、出席状況などによる評価

使用教材・参考文献

中央法規 最新・介護福祉士養成講座

第8巻 「生活支援技術Ⅲ」 第13巻 「障害の理解」

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程		
科 目 名	精神保健	授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習
授業概要	指定教科書の内容を基に、家庭・学校・職場・高齢者・青少年等幅広い分野における精神保健について学ぶ。				
担当講師	氏名	桂 哲	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員	
時 間 数	30 時間	単位数	単 位	学習時期	学年 2 年生 期 後期
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択 <input type="checkbox"/> 自由選択
到達目標	○精神保健についての基礎知識が身につく。 ○精神障害福祉について理解し対応方法についても理解できる。				
準備学習の内容	・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする				
授業の進め方	・板書による講義を中心とする。 ・プロジェクターを用いて視覚的効果の高い授業を行う。				

授業進行計画表

回数	授業内容	時間数
1	精神保健とは 精神保健福祉対策の概要	2
2	ライフサイクルと健康	2
3	パーソナリティと適応	2
4	精神障害の基礎知識	2
5	人格障害の分類	2
6	心理社会的ストレスの理解	2
7	各種の精神疾患について	2
8	思考障害の理解	2
9	気分障害の理解	2
10	躁状態とうつ状態について	2
11	自律神経失調症の症状について	2
12	精神保健福祉対策について（市町村・保健所の業務）	2
13	認知症と精神保健	2
14	精神保健福祉対策について（精神保健福祉センターの業務）	2
15	修了試験	2

成績評価の方法・基準

（試験やレポートの評価基準等）
 試験の結果、出席状況などによる評価

使用教材・参考文献

中央法規 最新・介護福祉士養成講座
 第 8 巻 「生活支援技術Ⅲ」 第 13 巻 「障害の理解」

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程			
科 目 名	こころとからだのしくみ からだのしくみ	授業方法	■ 講義	□ 実技	□ 実習	
授業概要	身体構造や疾病、生活環境などについての基礎知識を中心に、尊厳を守り自立に向けた介護技術について学ぶ。					
担当講師	氏名 立川 百合恵	■ 実務経験を有する教員				
時 間 数	60 時間	単位数	単 位	学習時期	学年 1 年生	期 後期
科目区分	■ 専門	□ 一般	履修区分	■ 必修	□ 選択	□ 自由選択
到達目標	○人体のしくみについての基礎知識が身につく、共通言語で他職種と連携ができる。 ○自立支援やその人の可能性を引き出す介護を考え、実践ができる。					
準備学習の内容	・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする					
授業の進め方	・板書による講義を中心とする。 ・プロジェクターを用いて視覚的効果の高い授業を行う。					

授業進行計画表		
回数	授業内容	時間数
1	健康とは	2
2	からだのしくみ「人間のからだの成り立ち」	2
3	からだのしくみ「恒常性」	2
4	からだのしくみ「脳・神経」	2
5	からだのしくみ「骨・筋肉」	2
6	からだのしくみ「感覚器」	2
7	からだのしくみ「呼吸器・循環器」	2
8	からだのしくみ「消化器」	2
9	からだのしくみ「泌尿器・生殖器」	2
10	からだのしくみまとめ	2
11	身支度に関したしくみ	2
12	身支度に関連したアセスメントのポイント	2
13	移動に関連したしくみ	2
14	移動に関連したアセスメントのポイント	2
15	前期修了試験	2
16	食事に関連したしくみ	2
17	食事に関連したアセスメントのポイント	2
18	食事に関連したアセスメントのポイント	2
19	入浴に関連したしくみ	2
20	入浴に関連したアセスメントのポイント	2
21	入浴に関連したアセスメントのポイント	2
22	清潔に関連したしくみ	2
23	清潔に関連したアセスメントのポイント	2
24	清潔に関連したアセスメントのポイント	2
25	排泄に関連したしくみ	2
26	排泄に関連したアセスメントのポイント	2

27	睡眠に関連したしくみ	2
28	睡眠に関連したアセスメントのポイント	2
29	死にゆく人に関連したしくみ	2
30	修了試験	2

成績評価の方法・基準

(試験やレポートの評価基準等)

出席状況と試験結果

使用教材・参考文献

中央法規 最新・介護福祉士養成講座 第14巻 「こころとからだのしくみ」

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程		
科 目 名	こころとからだのしくみ こころのしくみ	授業方法	■ 講義	□ 実技	□ 実習
授業概要	人間のライフサイクルに添って生じる心理的・生理的変化、疾病などによって生じる心理的特性について理解する。また、事例をもとに検討・討議を行い理解を深める。				
担当講師	氏名 柳田 多聞	■	実務経験を有する教員		
時 間 数	30 時間	単位数	単 位	学習時期	学年 1 年生 期 後期
科目区分	■ 専門	□ 一般	履修区分	■ 必修	□ 選択 □ 自由選択
到達目標	高齢者や障害者と関わっていく中で、相手の持つ心理的特性を理解し、それらを生かしながら介護に携わることの重要性が理解できるようになる。				
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする 				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・板書による講義を中心とする。 ・プロジェクターを用いて視覚的効果の高い授業を行う。 				

授業進行計画表		
回数	授業内容	時間数
1	心とは何か	2
2	こころのしくみ 「人間の欲求と自己概念」	2
3	こころのしくみ「学習・記憶・思考」	2
4	こころのしくみ「感情・認知・適応」	2
5	こころのしくみまとめ	2
6	発達について ～ 発達段階における心理	2
7	発達について ～ 老年期の心理	2
8	認知について ～ 記憶	2
9	認知について ～ 感覚と理解	2
10	学習について ～ 条件付け	2
11	性格について	2
12	臨床心理学	2
13	判断と意思決定	2
14	心理学の歴史	2
15	修了試験	2
		2

成績評価の方法・基準 （試験やレポートの評価基準等） 授業態度、出席状況、試験結果により評価

使用教材・参考文献 中央法規 最新・介護福祉士養成講座 第14巻 「こころとからだのしくみ」

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科			専門課程	教育・社会福祉専門課程					
科 目 名	医療的ケア			授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習			
授業概要	<p>安全・感染・連携の視点を学ぶ。医療的ケア支援対象者の身体状況に配慮、負担を最小限としたケア。</p> <p>医療行為である喀痰吸引や経管栄養を実施するために必要な実施手順・手技・安楽への配慮を学ぶ。</p>									
担当講師	氏名	立川百合恵 荒木美和 川内志津子 黒田美穂 豊福睦子 山口由美			<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員				
時 間 数	86 時間	単位数	単位	学習時期	学年	1 年生	期	後期	後期	
					2 年生					
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> 自由選択				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。 ・利用者の状態に応じた自身の行動（体位調整、状態報告）をアセスメントできる。 ・実施にともなうリスクを知り、同時に実施前後の観察によって身体に与える影響を捉える視点を持つ。 									
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする 									
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・板書による講義を中心とする。 ・プロジェクターを用いて視覚的効果の高い授業を行う。 									

授業進行計画表

回数	授業内容	時間数
1	人間と社会	1
2	人間と社会	1
3	保健医療制度とチーム医療	1
4	保健医療制度とチーム医療	1
5	安全な療養生活	1
6	安全な療養生活	1
7	安全な療養生活	1
8	安全な療養生活	1
9	清潔保持と感染予防	1
10	清潔保持と感染予防	1
11	清潔保持と感染予防	1
12	清潔保持と感染予防	1
13	健康状態の把握	1
14	健康状態の把握	1
15	健康状態の把握	1
16	健康状態の把握	1
17	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論	1
18	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論	1
19	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論	1
20	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論	1
21	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論	1

22	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論	1
23	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論	1
24	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論	1
25	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論	1
26	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論	1
27	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論	1
28	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論	1
29	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論	1
30	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論	1
31	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	1
32	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	1
33	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	1
34	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	1
35	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	1
36	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	1
37	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	1
38	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	1
39	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	1
40	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	1
41	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	1
42	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	1
43	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	1
44	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	1
45	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	1
46	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	1
47	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	1
48	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	1
49	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	1
50	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	1
51	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	1
52	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	1
53	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	1
54	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	1
55	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	1
56	高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説	1
57	高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説	1
58	高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説	1
59	高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説	1
60	高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説	1
61	高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説	1
62	高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説	1
63	高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説	1
64	高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説	1
65	高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説	1
66	修了試験	1
67	修了試験	1

1	演習	3
2	気管カニューレ内部の喀痰吸引	2
3	胃ろう又は腸ろうによる経管栄養	2
4	鼻腔内吸引	2
5	経鼻経管栄養	2
6	口腔内吸引	2
7	吸引追試	2
8	経管栄養追試	2
9	救急蘇生法	2
演習回数による単位取得 40時間		

成績評価の方法・基準

確認テストによる評価

確認テスト合格者は「吸引」「経管」「蘇生法」の各実技審査においてA判定取得以上を取得できた者は、科目履修として認める

使用教材・参考文献

中央法規 最新・介護福祉士養成講座 テキスト15
医療的ケア

〔備考〕

医療的ケアの50時間以上と設定されている項目（講義）については、60分を1時間として換算する。したがって、講義は67コマ実施する。

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科			専門課程	教育・社会福祉専門課程				
科 目 名	医療的ケア演習			授業方法	<input type="checkbox"/> 講義	<input checked="" type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習		
授業概要	安全・感染・連携の視点を学ぶ。医療的ケア支援対象者の身体状況に配慮、負担を最小限としたケア。 医療行為である喀痰吸引や経管栄養を実施するために必要な実施手順・手技・安楽への配慮を学ぶ。								
担当講師	氏名	立川百合恵 荒木美和 川内志津子 黒田美穂 豊福睦子 山口由美			<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員			
時 間 数	58 時間	単位数	単位	学習時期	学年	1 年生	期	後期	後期
					2 年生				
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> 自由選択			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。 ・利用者の状態に応じた自身の行動（体位調整、状態報告）をアセスメントできる。 ・実施にともなうリスクを知り、同時に実施前後の観察によって身体に与える影響を捉える視点を持つ。 								
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする 								
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者の指示に従い、模型により演習を行う。 ・数名で一組になり、相互に演習を行う。 								

授業進行計画表

回数	授業内容	時間数
1	気管カニューレ内部の喀痰吸引	8
2	胃ろう又は腸ろうによる経管栄養	8
3	鼻腔内吸引	7
4	経鼻経管栄養	7
5	口腔内吸引	7
6	吸引追試	7
7	経管栄養追試	7
8	救急蘇生法	7
	※演習回数による単位取得 40時間	

成績評価の方法・基準

確認テストによる評価

確認テスト合格者は「吸引」「経管」「蘇生法」の各実技審査においてA判定取得
以上を取得できた者は、科目履修として認める

使用教材・参考文献

中央法規 最新・介護福祉士養成講座 テキスト15
医療的ケア

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程			
科 目 名	就職指導	授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習	
授業概要	○就職試験を受験するための準備を行う。（一般教養試験・作文試験・面接試験対策） ○演習を交えながらビジネスマナーを習得するための学習を行う。					
担当講師	氏名	松尾 広宣 山下 忍	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員		
時 間 数	30 時間	単位数	単 位	学習時期	学年	1 年生 期 2 年生 前後期
科目区分	<input type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> 自由選択
到達目標	TPOに応じた言葉づかいと行動をとることができる。 社会人として必要な一般常識とビジネスマナーが理解できる。					
準備学習の内容	・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする					
授業の進め方	・板書による講義を中心とする。 ・履歴書の記載や模擬面接による演習を行う。					

授業進行計画表

回数	授業内容	時間数
1	働く意義と目的（就職活動の進め方・求人票の見方と資料請求方法）	2
2	就職活動に必要な書類、手続き等について	2
3	ビジネス文書（種類と様式）	2
4	就職試験問題過去出題問題の実施・分析	2
5	面接コメント用紙作成	2
6	電話対応の基礎（かけ方受け方）・演習敬語の基礎 尊敬語・謙譲語	2
7	作文指導「私が自慢できること」	2
8	模擬面接①	2
9	一般常識チェック&マスター（漢字の読み書き、国語の常識問題・文学	2
10	史）	2
11	作文指導 「高齢化社会の中で私ができること」	2
12	履歴書作成方法の学習と作成実習	2
13	作文指導 「ニートの増加について思うこと」	2
14	適性検査について（クレペリン検査・能力検査など）	2
15	作文指導 「学生時代に困難だったこととその乗り越え方」 作文指導 「仕事をするうえでの心構え」	2

成績評価の方法・基準

（試験やレポートの評価基準等）
筆記試験と出席状況による

使用教材・参考文献

一般常識チェック&マスター 実教出版
最新最強の適性検査クリア問題集 成美堂出版

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程		
科 目 名	国家試験対策	授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習
授業概要	国家試験合格に向け、多くの問題にあたり、不得意科目への対策や習得した学習内容の確認を行う。				
担当講師	氏名	立川 百合恵 酒井 利恵 山下 忍	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員	
時 間 数	100 時間	単位数	単 位	学習時期	学年
					1 年生 期 2 年生 前後期
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択 <input type="checkbox"/> 自由選択
到達目標	介護福祉士国家試験に合格できる				
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・過去問題により国家試験の傾向を知る。 ・国家試験に出題される科目の復習をする。 				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・過去問題及び模擬試験問題の演習、解答、解説。 				

授業進行計画表

回数	授業内容	時間数
1	国家試験概要説明	2
2	平成31年1月実施の国家試験を解いてみよう午前問題	2
3	平成31年1月実施の国家試験を解いてみよう	2
4	平成31年1月実施の国家試験を解いてみよう午後問題	2
5	平成31年1月実施の国家試験を解いてみよう	2
6	平成31年1月実施の国家試験を解いてみよう解答 解説	2
7	領域Ⅰ人間と社会 過去問 人間の尊厳と自立	2
8	領域Ⅰ人間と社会 過去問 人間とコミュニケーション	2
9	領域Ⅰ人間と社会 過去問 社会の理解	2
10	領域Ⅰ人間と社会 過去問 社会の理解	2
11	領域Ⅰ人間と社会 過去問 社会の理解	2
12	領域Ⅱ介護 過去問 介護の基本	2
13	領域Ⅱ介護 過去問 介護の基本	2
14	領域Ⅱ介護 過去問 コミュニケーション技術 介護過程	2
15	領域Ⅱ介護 過去問 生活支援技術	2
16	領域Ⅱ介護 過去問 生活支援技術	2
17	領域Ⅱ介護 過去問 生活支援技術	2
18	領域Ⅲこころとからだのしくみ 過去問 発達と老化の理解	2
19	領域Ⅲこころとからだのしくみ 過去問 発達と老化の理解	2
20	領域Ⅲこころとからだのしくみ 過去問 発達と老化の理解	2
21	領域Ⅲこころとからだのしくみ 過去問 認知症の理解	2
22	領域Ⅲこころとからだのしくみ 過去問 認知症の理解	2
23	領域Ⅲこころとからだのしくみ 過去問 認知症の理解	2
24	領域Ⅲこころとからだのしくみ 過去問 障害の理解	2
25	領域Ⅲこころとからだのしくみ 過去問 障害の理解	2
26	領域Ⅲこころとからだのしくみ 過去問 障害の理解	2

27	領域Ⅲ	こころとからだのしくみ	過去問	こころとからだのしくみ	2
28	領域Ⅲ	こころとからだのしくみ	過去問	こころとからだのしくみ	2
29	領域Ⅲ	こころとからだのしくみ	過去問	こころとからだのしくみ	2
30	領域Ⅳ	医療的ケア	過去問		2
31	領域Ⅳ	医療的ケア	過去問		2
32	総合問題		過去問		2
33	総合問題		過去問		2
34	第1回	模擬試験			2
35		//			2
36		//			2
37	第2回	模擬試験			2
38		//			2
39		//			2
40	第3回	模擬試験			2
41		//			2
42		//			2
43	第4回	模擬試験			2
44		//			2
45		//			2
46	第5回	模擬試験			2
47		//			2
48		//			2
49	要点確認		一問一答等		2
50	要点確認		一問一答等		2

成績評価の方法・基準

(試験やレポートの評価基準等)

学習態度 国家試験合格

使用教材・参考文献

クエスチョンバンク 介護福祉士 国家試験問題解説 ・メジカルフレンド 介護福祉士対策ドリル

中央法規 見て覚える国試ナビ 書いて覚える合格ドリル 介護福祉士国家試験模擬問題集
介護福祉士頻出問題要点チェック 介護福祉士国家試験対策速習 1問1答

誠美堂出版 介護福祉士問題集

ユーキャンユーキャンの介護福祉士 過去3年問題集 介護福祉士実力アップ予想模試 介護福祉士1問1答&要点まとめ 他